



# クラシック音楽の勧め

会員 中村 優介 (68期)

1 私は、大学時代から現在に至るまで、趣味で声楽をしている。具体的には、オペラの独唱の一部を、歌っている。

出会いは、大学1年次だった。クラシック音楽の合唱をする団体に入った（在学時は「Carmina Burana」(C. Orff)、「Requiem」(W. A. Mozart)などを歌った)ことがきっかけで、合唱曲に限らず、オペラの舞台に立ったり、聴きに行くなど、ハマった。私を見たことがある方には、「よくそんな（か細い）体型と似合わないことを…」と思われるだろう。自分でも驚くばかりである。

2 クラシック音楽と聞くと、「眠い」「つまらない」と思う方が大半だろうか。私も、当初はそんな風感じていたし、良さがよくわからなかった。

ところが、面白いもので、続ければ続けるほど、味わい深い。読み続けられる古典書にはそれなりの理由や現代にまで及ぶ示唆があるのと同じように、クラシック音楽も、現代まで紡がれる普遍性があるのだと感じる。

3 さて、私がクラシック音楽の歌唱にハマった理由は、（おそらく）二つある。一つは、体をどのように使うかを必死に考えたことである。クラシックの歌手は、マイクを使わずに歌うことがほとんどである。ただの大声でいいわけではなく、また、それでは表現することも困難である。どのように歌えば出力が増え、有り体に言えば「きれいに」歌えるか、（不真面目ながら）考えた。

もう一つは、楽譜を読み解く作業に取り憑かれたことにある。歌唱をするにあたって、（そもそも日本語ではない）歌詞の解読に始まり、自分が歌うパートの音の動きを追い、音楽記号とを含めて表現を理解する。そうした上で、自分が歌う音と他のパート、さらにはオーケストラ譜の音のぶつかりから、作曲家の意図を考える（ことが理想であった）。次第に慣れた

り、また、好きな曲に出会えたときは、楽譜を眺めることが楽しくなったりすることもあった。

4 では、どこから始めたら良いか。どんなことでもそうだと思うが、クラシック音楽も、自分で聞いてみて、「これはいいな」と思える物に出会うことが一番大切だと思う。

私が最初にステージ上で歌った合唱曲は、「Ein deutsches Requiem」(J. Brahms)であった。構想十年といわれるこの曲は、オーケストラに加え最大八声に分かれる人間の声をもあわせたときに響く独特の「調和」が、ある種の心地よさをもたらす。他方、その旋律と和声は、考えれば考えるほど、難しい曲でもある。

オペラ音楽で最初に舞台に立ったものは、「Un ballo in maschera」(G. Verdi)であった。（オペラ音楽は大抵そうだが）全体で約2時間を超える曲の合唱団員として、舞台上で衣装を纏い動きながら歌う、という未体験の連続であったため、鮮烈な印象が残っている。

これをお読み頂いた皆様も、インターネットやCDでクラシック音楽に触れ、（少し値は張るが）直接演奏会場に足を運んだり、（ハードルは高いが）楽譜や楽譜（写真は私有物）に手を伸ばしてみたいかがだろうか。これまで覗いたことのない新しい世界が開けること、間違いなしである。



楽譜を読み解くのも楽しい